

マイクロダイアリス方式自動精製装置

～迅速、低環境負荷、低コストの限外ろ過法～

中部大学 応用生物学部 教授 山本 敦
東海光学株式会社 加藤祐史、東海林秀典

▶〈関連ページ〉9、10、11ページ

狙い ゲル浸透クロマトグラフィー (GPC) は、分子サイズによって溶質を分離するという他のクロマトグラフィーには無い独特の機構を持っている。しかし、クロマト分離が有する溶質バンドの広がりによる溶質の拡散が試験溶液の希釈をもたらし、また高性能な送液ポンプを要することよりインライン化した精製装置は高額になった。受動拡散にのみ依存する単純な機構の透析法を利用する本装置は、小型・軽量・廉価化が可能である。

用途 畜水産物では、通知法によりGPCによる煩雑な前処理操作を必要とする。それ以外でも、茶葉のような複雑な夾雑成分を含む試料にあってはGPC操作が望まれる。本装置は、煩雑なGPC操作に置き換わる手法であり、試料前処理操作の簡便・迅速化に貢献する。

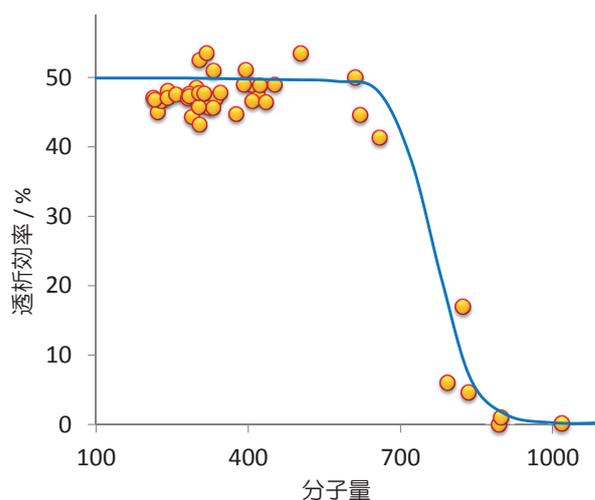
特長

- 分子量800程度の限外ろ過が僅か5分で可能に。
- 操作一回当たりナイロン製メンブランフィルター一枚と数mLのアセトニトリルのみという低コストを実現。
- 得られた透析液は、必要に応じて固相抽出処理を施した後、GC-MSやLC-MSによる測定に供することが可能。

仕様

外 寸／W:120×H:300×D:360mm
重 量／6kg
その他／電源AC 100V×2

マイクロダイアリス方式自動精製装置



マイクロダイアリス装置による分子篩効果

■お問い合わせ／東海光学株式会社 光機能事業部 課長 加藤祐史
e-mail : y-kato@tokaiopt.co.jp 電話番号 : 0564-45-8089 FAX : 0564-45-8001
■特許の有無 : 無